

自発学習を通じての歴史認識の形成

都 築 亨

1 はじめに

この3年ばかりの間、高校の日本史の学習をすすめるにあたって自発学習という形の学習法をつづけてきた。その自発学習の中で教師が特に問題を提起し、問題点を確認させることを強調するとき、生徒の歴史認識にどのような影響を及ぼすかということが昨年の紀要で考察を試みた点であった。

まだ定式化されていない自発学習又は自己展開学習についてはそれなりに問題が多いわけであるが、にも拘らず私がつづいてこの方法をとっているのはこの学習の中で生徒達の歴史的認識のプロセスを明らかにしたいと考えているからであり、生徒の反応や理解認識の仕方について講義による学習ではつかめないものをこの学習法を通して把握したいと考えているからである。

今迄の二三の実験的試みによって大体結論づけられることは、

① 自発学習と講義学習とくらべてみても、知的内容の理解については大差がないこと。

② その何れの場合もその学習前に問題点の略説又は図式的提示をして問題点を把握させることに重点をおいた場合にはそうでない場合にくらべてかなりのひらきをみることができ、とくに自発学習においてそのちがいが大きいこと。

③ 問題点の提起によって成績上位者ほど有効な反応を示すこと。

などがひき出されたと思う。

しかし知的理解については大差がみられないにしても、講義のみの学習、発表のみの学習、問題点の提起を含めた自発学習というそれぞれの形において、かなりちがった歴史のつかみ方がなされているのであろうことが予想できる。

歴史学習の目標はその知的理解もさることながら、むしろ歴史的なものの見方、考え方、歴史認識の形成にあると考えられるし、歴史的認識の形成ができたときにはほとんど歴史的事実の理解、知識の量が決定づけられるとあってよいのではないかとさえ思う。

そして講義によって学習がすすめられる場合には教師の史観がかなりつよく生徒に影響することは普通考えられる通りであろうけれど、その結果として出てきた生徒の歴史観、歴史像を感想文なり作文なりでみることは容易であるのに反して、その認識にたち至った経過を解明することはほとんどできなかったとあってよい。

歴史教育という面からみれば大切なのはその結果ではなくて過程であり、どのようにすればそうした歴史の見方が生れてくるかということであろう。

従ってここにさし当り私のとり上げようとしたことは自発学習という比較的生徒の動きや反応をつかみやすい学習の中で生徒たちがどのような歴史認識を形成してゆくかということであり、その学習の中で教師がどのような役割を果せばよいかという問題である。

本年4月以来2年の2組を大体同じく自発学習ですすめてきたわけであるが10月以降、近世史についてはA組を自発学習、B組を講義によって学習させてきている、従って今報告するのは主として後半の自発学習のクラスについてであるが、とくに幕藩体制の成り立ちに限ってまとめてみたいと思う。

2 自発学習における学習過程

幕藩体制の成立について、生徒の発表テーマは次の通りである。

§24. 徳川幕府はどのような経過をへて成立したか

§25. 幕藩体制はどのような特質をもっていたか

§26. 大名はどのように統制されてきたか

§27. 旗本御家人の生活はどのようなものであったか

§28. 幕府は朝廷寺社に対してどのような態度でぞんだか

§29. 農民はどのように統制支配されていたか

一つのテーマに発表者は1人を原則とするが、時間は1テーマ1時間とは限らない。最初にテーマのもつ歴史的意義を教師が略説してから生徒がそれぞれ研究した内容を発表(10~15分)し、それを中心に教師が司会をしながら質疑応答、論点を統一してゆく方法をとってきた。

教 科 共 同 研 究

テ ー マ	指導者、発表者の発表、発問（時間分）	生徒の反応質問
25幕藩体制はどのような特質をもっていたか、	<p>T（問題点の提起）鎌倉・室町政権とくらべての幕藩体制の特質 このころの世界の動き (6)</p> <p>R1 幕藩体制について 幕藩体制の意味 幕府の職制・老中、若年寄・三奉行・大目付・目付、幕府の経済的基礎・直轄地 (15)</p> <p>T 俸禄制度への転換と幕政の変質の意味 (4)</p> <p>R1 幕府の財政・所領・直轄地 (2)</p> <p>R1 寺社奉行の職掌について (1)</p> <p>T 寺社統制と江戸時代の寺社の力について T まとめ (12)</p>	<p>P1 知行制度と俸禄制とはどちらがうか。 ※</p> <p>P2 幕府の経済的基盤は何か。</p> <p>P3 荘園がなくなってきているのに寺社奉行が大名格の職掌になつてきているのはどういう事情によるのか。 ※</p> <p>P4</p>
26大名はどのようにして幕府の統制をうけていたか	<p>T（問題点の提起）大名支配の重要性 (4) 関ヶ原以後の将軍と大名との関係について</p> <p>R1 大名統制について 大名の格付けと配置 一国一城令 参勤交代 武家諸法度 (16)</p> <p>T（補足）大名の財力消費策について (7)</p> <p>R2 参勤交代の方法 (2)</p> <p>T 参勤の祖法としての意味 (5)</p> <p>R2 改易について</p> <p>T 改易廃絶をうけた大名の例 (3)</p> <p>T 武家諸法度 (10) 武家諸法度（史料）の解説 （元和の武家諸法度と寛永の武家諸法度）</p>	<p>P1 参勤交代は人質をとる以外に意味はなかったのか。</p> <p>P2 改易とはどうすることか。 ※</p> <p>P3 武家諸法度は何を対象とした法令か。</p> <p>P4</p>
27旗本御家人の生活はどのようなであったか	<p>T まとめ</p> <p>T 江戸時代の官僚としての旗本御家人の存在 (2)</p> <p>R3 旗本御家人について 旗本と御家人のちがい 旗本の職掌 番方・役方 俸禄米 (12)</p> <p>R3 旗本の説明 (2)</p> <p>T（補足） (4)</p> <p>T 旗本の生活について (13)</p> <p>T まとめ</p>	<p>P1 旗本の人数地位 ※</p> <p>P2 蔵米・扶持米はどちらがうか。 ※</p>
28（略） 29農民はどのように統制されたか	<p>T（問題点の提起）農民の地位は高かっただろうか (10)</p> <p>R5 農民統制について (11) 村 村方三役 五人組 田畑永代売買の禁止 分地制限令</p> <p>R5 P1P2の質問に対して (2)</p> <p>T 五人組制度について T まとめ</p>	<p>P1 本百姓以外には年貢を納めなくてもよいのか。</p> <p>P2 直轄領以外の農村はどのように支配するのか。</p> <p>P3 五人組の本当の目的は何か。</p>

T……教師

R……報告者

P……生徒

(別表3)

こうした学習過程の中で特に注意したいのに発表に対する質疑に費された時間の多い点である。講義の間では質問者は極めて限られる傾向にあるのに自発学習の場合、ここに示した場合に限っても1時間に平均5.5人の質問者を出し、質問とそれに対する応答に1時間(50分)の授業の $\frac{1}{3}$ 以上の時間をさいていることになる。

考え方によっては講義による方が自発学習の2倍以上の時間を歴史的事実内容のくわしさに向けることができるわけであるし、自発学習の非能率性が指摘できるかもしれない。

同じ時間で質問応答にそれだけの時間をさかれた自発学習における歴史の系統的な内容は明らかに講義による場合より量的に制限される。にも拘らず、この場合においても両組のテストにおける平均点はA組(自発学習)79.4点、B組(講義学習)82.3点であって、前回のテスト(両組とも自発学習をとっていた場合であるが)A組54.7点B組60.9点と考えあわせるとそれほど知識理解面における差があるとは考えられない(他の教科の成績においても大体Bの方がやや上まわる傾向がみられる。)

生徒自身の感じとしては自発学習ではやや心細いものを感じ、わかりにくいという感じをもっているようであるが、(表3参照)その割合には成績評価面にはでてこない。

(1) 講義学習で困ること、

(2) 発表形式で困ること、

をあげさせたものを表示してみると、次のようになる。

(別表2)

(1) 講義で困ること	A.(発表)	B.(講義)
質問がしにくい	3	9
予習をしなくせがつく、予習がおろそかになりがち	2	4
皆の考えがわからない	1	
自分で考える面が少くなる	2	
授業に対して消極的になり易い 自分で調べようとしなくなる	5	
その他(教師の個人的なくせ、 クラスの特異な条件に基づくもの)	5	7
なし	31	30

(2) 発表形式で困ること	A	B
理解の困難	19	25
要点、重要な点があつかみにくい	5	9
予習してこないとわからない	2	2
他人の発表した所がわかりにくい	12	14
発表調査の困難 自分で調べてもわからない、調べるのがむづかしい	5 2	3
発表がしにくい、うまく発表できない		3
調べるのが重荷になる	3	
授業をうける側の困難		
書きにくい、ノートしにくい	2	4
不必要なことが多い	1	1
発表者のむらがある	2	2
発表内容が聞きとりにくい	12	8
その他	2	3

講義をうけている方からいえば、質問しにくいということが、講義学習の最も困る点としてあげられている。それが逆に自発学習の長所というべきであろう。とくに少数回答ではあるが講義をうけているときには「皆の考えがわからなくて困る」「自分で積極的にしらべたり予習をしようと思わず」「授業に対して消極的になり易い」ということは裏がえして考えれば自発学習の大きなとりえと考えることができるであろう。

質問の質にもよることではあるけれど講義をうけているだけであったらそのまま聞きすごしてしまう程度の問題が他人の質問によって改めて認識を新たにさせられることは極めて多いといわなければならない。第1表中※で記した個所は質問がなければそのまま通りすぎてしまったかもしれないと思う個所である。

質問が出されることによって、皆の考えやわからない点が確認され、同時に自分の考えのあいまいであった点が意識されることは学習に対する構えをつくる意味で極めて重要であるといえる。講義で学習しているクラスの方で講義学習による困難点として「質問がしにくい」点が第一にあげられているのもその意味では教師としてつよく反省しなければならない点であるし生徒たちに自分の思考の存在する余地を残さないほどの名講義はこうした点ではむしろ一の効果も働いているといつてもよいかもしれない。

歴史の授業のおそらく共通した特徴(欠点)はきまりきった歴史の流れを教師がよどみなく講義することであろう。どの教科の授業よりも系統性が確立されており、おそらくどの教科よりもより多く教師の側から

の生徒への注入，一方交通が行なわれているのが普通である。生徒はその教師の教説をそのまま受容し，できるならば一言一句をそのままに丸暗記しようとする。しかしながらそこから生徒自身の歴史認識は生れてこないのではないだろうか。教師の歴史観を生徒におしつけることだけが歴史教育ではないはずである。自分の判断，自分の思考を生み，そだてる機会をあたえる点で自発学習の積極的意味は見直されるべきであると思う。

講義学習とくらべて自発学習をとった場合，その歴史認識がどのようにちがってくるかという点についてはまだはっきりした結論を下すことはできないが，

「封建社会についてあなたはどのような感じをもちますか」という質問に対する回答をまとめた結果は次の通りである。

	A	B
封建社会を感情的によくなく社会とうけとる反応	18	10
江戸時代をととのった秩序体制としてや積極的に評価する反応	5	12
統制が強化された時代を自分の立場で仮定してうけとめる反応	13	3
歴史的発展の上に客観的評価を支えようとする反応	15	23
その他	3	5

自発学習の方にやや感覚的なうけとめ方

自分の立場でのうけとり方が多く，講義の方にやや客観的なうけとり方が多いのが目立つ程度である。

客観的な歴史の見方がのぞましいとすればここでの自発学習の反応はむしろ好ましくないともいえる。

自分の立場での反応，例えば「自分がその時代に生きていたとしたらおそらく領主の強い圧制にたえられ

なくて反逆的な生き方をすることにちがいない。江戸時代で人間的な生き方をすることは一寸無理なのではないか」というような感想は自発学習の中での質問の出し方やそのやりとりの仕方に多分につよく左右されており学習の雰囲気の中に積極的に自己を没入させることができた結果ともみることができる。表現としてはたしかに客観的でも歴史的でもないが，学習意欲・関心のもち方の点ではむしろ期待できる性質のものであろう。

3 むすびにかえて

今迄の歴史教育が余りにも固定した学習内容を系統的に配列してきたきらいはあるにしても，そのすべてを生徒の理解しやすいように編成し直すことはできない。教育である限り，教授すべき学習内容はもとより設定されなければならない。しかしながら最も系統的であるはずの歴史，とくに日本史の学習内容が旧国史の体系やら，教科書の史観・立場，或は入試問題の傾向に教師自身が影響されて，生徒の理解や認識をこえる授業が行なわれているのではないかと思う。

高校での日本史の学習内容は中学校での学習内容との重複も考慮に入れて編成され直されなければならないと思うし，その再編成の時期は新教育課程の実施される今を措いてないといえる。この機会に生徒の歴史的認識を有効にすすめるための学習内容を再編成することの必要性を感じるのである。

今後に残された問題として自発学習の中で，教師と生徒とが果しているそれぞれの役割，作用—教師にとっては生徒の動かし方，生徒にとっては学習のうけとめ方—をどのように法則化してつかんでゆくかという事があるし，それこそが本校の共同研究のテーマとなつていけるものであろうが，今後にゆずりたいと思う。